

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
日本リハビリテーション専門学校	平成9年12月25日	陶山 哲夫	〒171-0033東京都豊島区高田3-6-18 (電話) 03-5954-6511			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 敬心学園	昭和61年4月11日	理事長 小林 光俊	〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3200-9071			
目 的	理学療法士として即戦力を身につけるための専門教育を実施する。心豊かな人間性を持った医療者育成を目指し、知識や技術のみでなく総合的臨床能力を高めることに重点を置く。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療技術 専門課程	理学療法学科 (昼間部)	4年(昼)	139単位	—	平成17年文部科学省告示第169号・170号
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		80単位	13単位	46単位	46単位	46単位
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		158人	10人	25人	35人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について S,A,B,C,Dの5段階評価、筆記試験、実技試験、平素の学習状況及び欠席状況を総合して評価する。		
長期休み	■学年始め：4月3日 ■夏 季：8月10日～9月11日 ■冬 季：12月25日～1月4日 ■春 季：3月9日～4月3日 ■学 年 末：3月6日		卒業・進級条件	卒業要件：本校に4年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制、授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対し担任が指導を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 学業に支障がない範囲でボランティア活動に参加することを方針としている。 ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 病院、診療所、介護老人保健施設他 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 100% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)		主な資格・検定	・理学療法士国家試験受験資格 ・上級救命講習		

中途退学の現状	<p>■中途退学者9名 ■中退率 5.8%</p> <p>平成27年4月1日在学者156名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者147名（平成28年3卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更（不適性）、成績不振、健康上の理由等</p> <p>■中退防止のための取組 クラス担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、状況の把握に努めている。一定の成績に満たない学生に対しては、自己分析の上、学習方法の改善等の特別指導を行っている。</p>
ホームページ	URL: https://www.nitiriha.com/

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生徒の就職先となる医療機関（病院・医院等）及び介護老人施設や福祉施設（身体障害者施設・介護老人福祉施設等）における理学療法士等の人材の専門性に関する動向を踏まえながら、最新の実務に関する知識、技術、技能などを十分把握・分析したうえで、当該職業実践専門課程の理学療法学科昼間部（4年制）の教育を実施するにふさわしい授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月6日現在

名 前	所 属
陶山 哲夫	日本リハビリテーション専門学校 校長
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あみず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士
二瓶 隆一	日本リハビリテーション専門学校 名誉校長
工藤 征四郎	日本リハビリテーション専門学校 副校長・総括事務長
畠山 敦	日本リハビリテーション専門学校 教務部長兼理学療法学科総括学科長
近野 智子	日本リハビリテーション専門学校 副教務部長兼作業療法学科昼間部学科長
篠田 良平	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科昼間部学科長
鈴木 雅男	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科夜間部学科長
深瀬 勝久	日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科夜間部学科長

(開催日時)

第1回 平成28年10月21日 15:00～16:00

第2回 平成29年 2月17日 15:00～16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では臨床的教育重視の観点から企業との連携による実習・演習等に関して、最新の実践的かつ専門的職業教育を行うことを基本方針として実践している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	指導者のもとで見学を通じて、病院、施設内での理学療法士の役割と責任を包括的に把握し、理学療法の対象となる患者、障がい者の持つ諸問題を理解する。 また、将来理学療法士を目指す学生として医療人としてのふさわしい態度を培う。これまで履修した基礎知識が、臨床でどのような意味を持つか認識する。特に、すでに学習した検査、測定技術（MMT、ROM・T、感覚検査等）は、機会があれば指導者のもとで実践する。	いずみ記念病院、河井病院、厚生荘病院、多摩丘陵病院、東大和病院他 平成27年度38施設、平成28年度35施設
臨床実習Ⅰ	基本的な疾患の理学療法を学んだところで、比較的症状の明瞭な患者について、指導者のもとで、情報収集、検査、測定を実施し、それをも	中田病院、松戸市立病院、愛知医科大学附属病院、埼玉医科大学総合医療センター、多摩丘陵

	とに障害構造の理解を深め、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案ができるようにする。 また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	病院、他 平成 27 年度 32 施設、平成 28 年度 36 施設
臨床実習Ⅱ	指導者の下で、複数例の患者を担当し、その評価、実際の治療、治療経過の記録、リスク管理など理学療法臨床の実際を体験する。最終実習時には、上記の内容がほぼ独立して行えるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	宇部第一病院、介護老人保健施設葵の園・富士見、中田病院、いずみ記念病院、日本医科大学付属病院他 平成 27 年度 71 施設、平成 28 年度 65 施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

日本リハビリテーション専門学校教職員研修規程に基づき、専修学校の専門課程の職業実践専門課程の認定の趣旨に鑑み、時代の流れに沿った最新の医療・福祉・保健等に関する社会のニーズを反映した教育活動を実践していくため、これまで以上に、研究レベル及び実務レベルの医療や福祉又は保健等の学会や研修会に教職員が積極的に参加して、資質の充実向上を図っていくことを教職員研修等基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 29 年 3 月 6 日現在

名 前	所 属
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <https://www.nitiriha.com/evaluation>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <https://www.nitiriha.com/evaluation>

授業科目等の概要

(医療技術専門課程理学療法学科昼間部) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			哲学	医療従事者に必要な多用な考え方と価値観を育む。現代社会を生き抜き、どのような状況でも柔軟に前向きに対応できる医療従事者として成長する過程で心の糧となるような哲学を扱う。	1前	30	2	○		
○			心理学	心理学の基礎を学ぶ。心理学の全体像を理解し、さらに人間の発達段階における特徴や人間理解の基礎知識を習得する。	2前	30	2	○		
○			教育学	教育の分野では、近年多くの課題が指摘され、今までにない諸改革が進行している。現在の教育状況を把握し、授業を通して人間や社会等の理解の視野を広げる。	1前	30	2	○		
○			社会学	社会的人間について、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。さらに、人権、コミュニケーション論をグループワークを中心に行い、共生生活について考えていく。	2前	30	2	○		
○			情報科学	広い意味における情報を扱い、処理し、利用するための技術を習得する。情報処理の基本から学習方法につながる知識も学ぶ。	1前	30	2	○	△	
○			自然科学Ⅰ (物理)	専門科目を理解するために必要な物理学の知識を習得する。現実の場面で物理学的な考え方が適用できるようになること。	1前	30	2	○		
○			統計学	医療関係で使う統計学の全体像を把握する。併せてExcelとRコマンドのツールの利用法を学ぶ。	2後	30	2	△	○	
○			保健体育	健康についての理解を深め、健康に影響を与える因子が我々のライフスタイルとどのように関連するか学習する。健康に影響を与える因子とライフスタイルを学ぶ。	1前	15	1	○		
○			体育実技	理学療法士として必要な動作と身体のしくみを自分自身の身体で感じ、臨床現場で役立つ実践的な運動効果の知識と技能を習得する。	1前	30	2			○
○			英語Ⅰ	机上の学習だけでなく時には体も動かし英語を「生きた言葉」として捉えるようにすると同時に、医療の専門用語についても身につけていく。	1前	30	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			医学英語	英語でのコミュニケーション、海外での研修等への参加に必要な英会話と海外の医学文献、臨床におけるカルテの読解に必要な英語力を学ぶ。	1後	30	2	○		
○			解剖学Ⅰ	人体の構造を理解する。骨格、関節の構造を理解するとともに解剖学用語を習得する。	1前	30	1	○		
○			解剖学Ⅱ	人体の構造を理解する。筋肉の種類と位置を理解し用語を習得する。	1前	30	1	○		
○			解剖学実習	人体構造と機能を理解し、神経系及び感覚器系の構造を習得する。	1後	30	1	△		○
○			機能解剖学	人体構造の理解。循環器系及び内臓の構造を理解し、用語を習得する。	1後	30	1	○		
○			解剖総論	一連の解剖学授業と長期実習を終えた中で、解剖学の知識を学び直し総合的なまとめを行う。人体構造の特殊性と機能を再確認する。	4後	30	1	○		
○			生理学Ⅰ	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。人体の構造、機能について学ぶ。	1前	30	1	○		
○			生理学Ⅱ	人体の基本構造について理解し基本的な知識を習得する。人体の構造と知識について学ぶ。	1前	30	1	○		
○			生理総論	一連の生理学授業と長期実習を終えた中で、解剖学の知識を学び直し総合的なまとめを行う。各器官系の働きを振り返りながら総合的な理解を深める。	4後	30	1	○		
○			生理学実習	人体の生理機能についての理解を深めるための実習を行う。血圧と心拍数、心電図、呼吸数測定、血液計測等。	1後	30	1	△		○
○			運動生理学	運動に対する様々な体の反応を理解し、学習した知識を活用できるようになることを目標とする。	2後	30	1	○		
○			運動学Ⅰ	運動学の基礎知識と下肢の構造と運動のメカニズムを習得する。	1前	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			運動学Ⅱ	上肢・体幹の構造と運動のメカニズムを習得する。歩行分析に必要な基礎知識を習得する。	1後	30	1	○		
○			運動学実習	運動学の知識を用いて人間の基礎的なバイオメカニクスを理解し、正常な姿勢や歩行について習得する。	2前	45	1	△		○
○			人間発達学	身体的・精神的・社会的存在としての「人」を発達の視点から学ぶ。リハビリテーションを展開する上で、その対象である人の理解を深める。	1後	30	1	○		△
○			生涯発達概論	発達し続ける人の理解を深め、治療者の視点から学ぶ。人間発達学に続いて運動発達を理解する。	2前	15	1	○		
○			病理学概論	病理学の基本的な知識を学び、各疾患との関係について理解する。	2後	30	2	○		
○			臨床心理学	臨床心理学の基本的な考え方に加えて、各種心理療法について、心理テストの体験や講義、演習などを通して体験的に学ぶ。	2後	30	2	○		△
○			内科学・老年学	主要な内科疾患について病態・検査・診断・治療を学習する。リハビリテーションに必要な内科の知識を学ぶ。	2前	30	2	○		
○			整形外科学	整形外科に関する正確な知識の習得とそれらの正しい運用ができるPTの育成。	2前	30	2	○		
○			神経内科学	神経内科学の基礎を理解する。リハビリテーションに関連する知識を学ぶ。	2前	30	2	○		
○			精神医学	理学療法における精神医学の役割について理解し、病態を学ぶ。精神医療で扱う病候や精神症状を呈する患者に対する理解を深める。	3前	30	2	○		
○			小児科学	理学療法・作業療法を必要とする、小児・思春期に特有の疾患について理解する。	2前	30	1	○		
○			社会福祉概論	理学療法に関連する法規を学習し、保険医療福祉の分野におけるニーズに対応できる。児童・老人・障害者の分野における福祉制度の実施体制、福祉サービスの内容等について学習する。	3後	15	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の基礎知識とリハビリテーション発展の歴史・現状・課題並びにリハビリテーション主要四分野の概要等について学習を深める。	1前	30	2	○		
○			公衆衛生	家族、地域社会の背景を見極めることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ、実践的活動に役立つ知識を習得し、将来の医療組織チームの一員となることを目標とする。	3後	15	1	○		
○			理学療法概論Ⅰ	リハビリテーションにおけるPTの役割と医療者としての心構えを学習する。医療、リハビリテーション、理学療法の基礎的事項を学習する。	1前	30	2	○		
○			理学療法概論Ⅱ	理想とする理学療法士像とその行動目標を共通認識として形成する。臨床現場の見学を通じて、理学療法士としての行動を意識する。	1後	30	2	△		○
○			病態運動学	疾患別の運動機序を理解し、運動学、機能解剖学の知識を統合する。動作分析の概念・基本、疾患別の動作の特徴、動作分析演習を行う。	3前	30	2	○	△	
○			理学療法研究法	研究の意義・方法を知るためにデータ解析学を学ぶ。更に研究論文が読めるようになること、論文の書き方を理解できるようになることを目標とする。	3後	15	1	○	△	
○			P B L セミナーⅠ	1つのシナリオに対し、グループで検討・学習・まとめを行い知識の共有をはかる。	1後	30	1		○	
○			検査測定法概論	理学療法で必要となる理学療法評価の概念を理解し、学習する。概念と基礎的な検査法を学習する。	1前	15	1	○		△
○			検査測定法Ⅰ	関節の基本的運動方向を理解し、各関節可動域の参考値を知り、関節可動域テスト（ROMテスト）の測定方法を熟知する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅱ	整形外科疾患検査に必要な解剖・疾患を理解し各種疾患の検査を適切に実施できるようになる。	1後	15	1	○		△
○			検査測定法Ⅲ	各検査に関する理論をふまえ、正確な検査・結果の解釈が実施できるようになる。伝導路や反応が生じるメカニズムの確認を行ったうえで、評価方法や結果の解釈について講義・実技を通して学習する。	1後	30	1	○		△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			検査測定法Ⅳ	中枢神経疾患の病態把握に必要な検査の理論と技術を習得する。	2前	30	1	○		△
○			検査測定法Ⅴ	専門職として、対象者の高次脳機能を評価し、リハビリテーションを立案実施出来る。人の高次脳機能のメカニズムや検査法を、適切な用語を用いて記述・説明出来る。	2前	15	1	○		△
○			検査測定法実習	徒手筋力検査法を実施し、筋力を正確に評価できるようになる。筋の走行や働きを確認した上で、実技を通して検査方法や判断基準を学習する。	1後	45	1			○
○			検査測定セミナーⅠ	検査測定の統合と解釈を統括的にまとめ、系統的に実技の学習・確認を行う。	3前	30	1	△		○
○			検査測定セミナーⅡ	専門職として、対象者の状態を分析した上で、面接法を選択することが出来る。臨床的な面接の対応に生かす、人の特性の分析・解釈の評価過程と記述の取り方を演習する。	3前	30	1	△		○
○			運動動作解析学	基本動作・歩行を観察し運動学的な用語を用いて説明できる。基礎的な解剖とバイオメカニクスを用いて各動作を分析し問題点を探索できる。	3後	30	1	△		○
○			P B L セミナーⅡ	症例の病態を把握し臨床を想定した統合と解釈が出来る。レジュメを作成し、症例報告が出来る。	2後	30	1		○	
○			OSCEⅠ	基本的な理学療法検査について演習を行い、健常者を対象に実施できる技術を身につける。	2後	15	1		○	△
○			OSCEⅡ	疾患別に対応した検査について演習を行い、一連の動作として実施できる技術を身につける。	3前	15	1		○	△
○			総合セミナー	臨床の学習・実習時に必要な、他部門の知識、新しい領域の知識を学習する。(レントゲン写真・MRI・CTの見方、臨床検査の情報の見方、障害者スポーツ、福祉施設の現状、自閉症のリハビリテーションなど)	3後	15	1	○		
○			理学療法臨床セミナーⅠ	臨床実習Ⅰで得た成果を発表し、次の学習目標の指針を明確にする。	3後	15	1		○	
○			理学療法総合演習Ⅰ	理学療法を職業として実施する前に、学内で学んだ知識のまとめを演習形式で行う。	4後	30	1		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			理学療法総合演習Ⅱ	理学療法を職業として実施する前に、学内で学んだ知識のまとめを演習形式で行う。	4後	30	1		○	
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の基本知識を理解し、関節可動域運動を実践できる。基本的な介助方法を理解し実践できる。運動療法の定義・目的・対象・適応・禁忌が説明できる。	1前	30	1	○		
○			運動療法学Ⅱ	基本的な運動療法の理論を理解する。ストレッチングを実践できる。基本的な運動療法の概要を理解し説明できる。	1後	30	1	△		○
○			物理療法Ⅰ	物理エネルギーの特性と、それに呼応した人体の反応から物理療法の理論と技術を学ぶ。各種療法の効果、手技、適応、リスク管理、機器の操作を習得する。	1後	30	1	○		△
○			物理療法Ⅱ	物理エネルギーの特性と、それに呼応した人体の反応から物理療法の理論と技術を学ぶ。各種療法の効果、手技、適応、リスク管理、機器の操作を習得する。	2前	30	1			○
○			義肢装具学Ⅰ	基礎疾患を理解した上で、切断と装具の基礎知識を学習する。治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。	3前	30	1	○		
○			義肢装具学Ⅱ	基礎疾患を理解した上で、切断と義肢の基礎知識を学習する。治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。	3前	30	1	○		
○			日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動（ADL）の概念・評価法を理解する。移乗介助、車椅子操作ができるようになる。	2前	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅱ	歩行補助具の種類と歩行パターンを理解する。代表的疾患に応じたADL指導、介助法を理解する。また、移動補助具、歩行パターン・基本動作、セルフケアの側面からも考慮する。	2後	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅲ	代表的疾患に対するADL訓練・指導ができる。在宅復帰に向けたADL指導を考えられる。ADL訓練・指導に必要な知識の習得と実践を学ぶ。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅰ-A	整形外科疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラムの立案、基本的な治療を行うことができる。代表疾患の原因、障害像、整形外科的な考え方、評価内容、治療内容を提示し、学習する。	2後	30	1	○	△	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			疾患別理学療法Ⅰ－Ｂ	整形外科疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラムの立案、基本的な治療を行うことができる。代表疾患の原因、障害像、整形外科的な考え方、評価内容、治療内容を提示し、学習する。	2後	30	1	○	△	
○			疾患別理学療法Ⅱ－Ａ	脳血管障害における障害の特徴を理解し、評価・治療の基礎を学習する。	2後	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅱ－Ｂ	医療職として高齢者のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を理解する。	2後	15	1	○	△	
○			疾患別理学療法Ⅲ－Ａ	疾患の特徴を理解したうえで神経筋疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラム立案を実施できるようになる。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅲ－Ｂ	疾患の特徴を理解したうえで神経筋疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラム立案を実施できるようになる。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅳ－Ａ	呼吸リハビリテーションの概要、適応を理解する。呼吸器疾患の病態を把握し、評価や理学療法の進め方・リスク管理を学習する。	3前	30	1	△		○
○			疾患別理学療法Ⅳ－Ｂ	心疾患・代謝疾患の病態を理解し、評価・理学療法の進め方、リスク管理を学習する。	3後	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅴ－Ａ	脳性麻痺のある対象者に対して、その原因・病状・予後・二次障害をふまえて、評価を選択し、ライフステージに合わせた理学療法を実施できる。脳性麻痺の発生原因と病態を学ぶ。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅴ－Ｂ	疾患の特性を理解したうえで脊髄損傷の理学療法を学習し、適切な評価・治療・ADL指導を選択できる能力を身につける。	2後	15	1	○		△
○			疾患別演習	各疾患別に基礎医学・評価・治療を統合し、臨床的な視点で学習する。	3前	15	1	△	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			理学療法技術論Ⅰ-A	理学療法評価や運動療法を実施するために、身体各部の位置を名称を含めて触診できるようにする。	1後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅰ-B	各骨格筋や靭帯など軟部組織に対する触診法について学習する。各骨格筋の解剖や作用(運動)について再復習し、骨格筋を中心とした軟部組織の触診法を修得する。	2前	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅱ	関節系に関する治療手技について、基本的構造や関節機能以上など基礎学習と評価、手技の習得を学ぶ。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅲ-A	組織の理解を深め、軟部組織・筋膜・神経に対する評価・治療の基礎を把握する。解剖学的特性に対する構造的アプローチと、機能変化を確認する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅲ-B	組織の理解を深め、軟部組織・筋膜・神経に対する評価・治療の基礎を把握する。病状を理解し、運動学・力学的考察を踏まえながら、条件設定による反応の違いを確認する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅳ-A	臨床セミナーの一環として、臨床的に使われるPNFのアプローチについて実技を中心に学習する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅳ-B	脳卒中、脳損傷の運動麻痺を理解し、対応した理学療法の理論と技術を習得する。総合的リハビリテーション概念と急性期から維持期までの評価・治療技術を習得する。	3前	30	1	△		○
○			スポーツ臨床治療学	整形外科領域の臨床現場で頻出するスポーツ障害に対する理解を深め、疾患に対応する知識と技術を学ぶ。	3前	15	1	○		△
○			PBLセミナーⅢ	模擬患者に対し、グループで検査・評価を行い、個別にまとめ・発表を行う。学んできた知識と技術を臨床的に活用するための方法を学ぶ。	3前	15	1		○	
○			理学療法臨床セミナーⅡ	臨床実習Ⅱで得た成果を発表し、次の学習目標の指針を明確にする。	4後	30	2		○	
○			地域理学療法学	地域理学療法的位置づけについて広い視野から理解し、役割について学習する。地域・在宅を基盤に生活している障害者・高齢者に対する支援方法を学習する。	3前	30	2	○		
○			地域理学療法演習	地域参加、ボランティア参加を通じて、医療者としての信念・倫理を再考する。	3前	15	1	△		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			生活環境論	障害者、高齢者を取り囲む様々な生活環境を理解し、QOL向上のための生活環境整備の知識・基支援技術を習得する。	3前	30	2	○		
○			臨床見学実習	病院、施設の運営、理学療法科の位置づけと役割を知り、リハビリテーションの中で理学療法の役割を理解する。理学療法の対象となる患者の持つ諸問題を理解し問題解決の為に理学療法士として可能なことを概念的に認識する。	2前	45	1			○
○			臨床実習Ⅰ	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術に加え、臨床場面での検査・測定を実践する。評価で得られた情報を基に障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療プログラムの立案等ができるようになる。	3後	360	8			○
○			臨床実習Ⅱ－A	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術をもとに、臨床場面での評価・治療を独立または、実習指導者の下で実践する。リハビリテーションスタッフの一員としての立場チームワークについて学ぶ。	4前	360	8			○
○			臨床実習Ⅱ－B	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術をもとに、臨床場面での評価・治療を独立または、実習指導者の下で実践する。リハビリテーションスタッフの一員としての立場チームワークについて学ぶ。	4後	360	8			○
合計					95科目	3,600単位時間(139単位)				